

## 第1学年 単元の目標と評価の具体例

### 1年①「すたあと ぶっく」

◎ 算数への導入 (わくわく すたあと)					
目 標					指導時数・時期
○ 通学路や学校生活の場面で、ものの集まりに着目しながら個数を比べる活動を通して、親しみながら算数を学ぶ態度を養うとともに、これからスタートする学校生活にスムーズに順応できるようにする。					3時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
評 価					
(知) ・観点を決めたものの集まりのつくり方や、1対1対応による数の多少の判断の仕方を理解し、観点を決めてものの集まりをつくったり、2つの集まりの要素を1対1に対応づけたりすることができる。					
(思) ・ものの集まり(集合)、仲間づくり(分類)、および1対1対応の見方・考え方を身につけている。					
(態) ・これまでの体験をもとに、ものの集まりや数に親しみを持って関わり、ものとブロックを対応させるよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
わくわく すたあと わくわく がっこう	1	2～5	○幼児期の体験をふりかえり、これから学ぶ算数の学習への興味や関心、期待をもつ。 ○同じ仲間ものをまとめて囲み、ものの集まりに着目することを知らる。	・オリエンテーション(幼児期の体験とのつながり) ・ものの集まり(集合と分類)	(態度)これからはじまる算数の学習への意欲をもつとともに、同じ仲間ものをまとめて囲む活動を楽しもうとしている。《観察》 (知技)問いかけに応じて集合をつくることことができる。《観察・発言》
	2	6～7	○2つのものの集まりの要素を1対1に対応づけ、数の多少を調べる。	・1対1対応(線で結ぶ)による数の多少の判断	(知技)2つのものの集まりの要素を線で結び、1対1の対応をつけて多少を調べることことができる。《観察》
	3	8～9	○2つのものの集まりを数図ブロックに置き換え、数図ブロックどうしを1対1に対応づけて数の多少を調べることことができる。	・1対1対応(数図ブロックに置き換える)による数の多少の判断	(思判表)2つのものの集まりの要素をブロックに置き換えて、多少を考えている。《観察》 (態度)ものの集まりをブロックに置き換えて、端をそろえて並べるよさに気づいている。《観察》

1 かずと すうじ					
目 標					指導時数・時期
○ 10までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、具体物と数図ブロックを対応させる活動を通して、ものの個数を数で表すよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					7時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
評 価					
(知) ・10までの数の数観念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。					
(思) ・ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につけている。					
(態) ・身のまわりの10までの数に親しみを持って関わり、個数を数で表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
5までの かず	1	10～11	○5までの数について、具体物と半具体物に対応させながら数観念を養い、数を表したり、数字に対応させたりすることができる。	・5までの数の具体物と数図ブロック、数図との対応、数のよみ方と数字 ・具体物—数図—数の対応	(知技)具体物と数図ブロックを対応させたり、1～5の個数を数えたりすることができる。《観察・発言》 (態度)具体物、数図、数字を対応づける活動を楽しみながら、数の表し方を理解しようとしている。《観察》
	2	12	○5までの数について、数字のかき方を理解して正しくかくことができる。	・1～5の数図 ・5までの数字のかき方	(知技)1から5までの数字を正しくかくことことができる。《観察・ノート》
	3	13	○5までの数について、順序よく数えることことができる。 ○5までの数について、数字で表し、ものと数を対応させることことができる。	・1～5の数系列 ・5までの数の具体物と数字の対応	(知技)1から5までの個数を数字で表すことことができる。《観察》
10までの かず	4	14～15	○10までの数について、具体物と半具体物に対応させながら数観念を養い、数を表したり、数字を対応させたりすることができる。	・10までの数の具体物と数図ブロック、数図との対応、数のよみ方と数字	(思判表)10までの数について、具体物、数図、数字を対応させて考えている。《発言・観察》 (知技)6～10の個数を数えることことができる。《発言・観察》
	5	16	○10までの数について、数字のかき方を理解して正しくかくことことができる。	・6～10の数図 ・6～10の数字のかき方	(知技)6から10までの数字を正しくかくことことができる。《観察・ノート》
	6	17	○10までの数について、順序よく数えることことができる。 ○10までの数について、数字で表し、ものと数を対応させることことができる。	・6～10の数系列 ・10までの数の具体物と数字の対応	(知技)6から10までの個数を数字で表すことことができる。《観察》

ならべよう いって みよう くらべよう かぞえよう	7	18～19	○10までの数について、順に唱えたり、大小を比較したり、変動する事象の数を数えて数字で表したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字と数図ブロックとの対応、1～10の数系列</li> <li>・1～10の数系列を唱える</li> <li>・数の大小比較</li> <li>・音の数と数字の対応</li> </ul>	<p>(知技)数や数字に対応させて数図ブロックを並べることができる。《観察》</p> <p>(態度)10までの数について、いろいろな活動を通して楽しみながら理解を深めようとしている。《観察》</p> <p>(知技)10までの数を順や逆に唱えたり、大小を比較したりすることができる。《観察・発言》</p>
------------------------------------	---	-------	--	---	---

## 2 なんばんめ

目 標			指導時数・時期		
○ 順序数について、数が順序を表す場合に用いられることを理解し、方向や位置を表すことばでものの順番や位置を表す活動を通して、順序数を用いるよさを感じながら学ぶ態度を養う。			3 時間 2 学期制：5 月中旬 3 学期制：5 月中旬		
評 価					
<p>(知) ・数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。</p> <p>(思) ・「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてもものの順番や位置を表すことを考えている。</p> <p>(態) ・これまでの体験をもとに、順番や位置に親しみを持って関わり、順序や位置を数で表すことのよさや学ぶ楽しさを感じている。</p>					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
ならんだ こと ある かな	1	20～21	○前後、上下、左右に並んだものの位置を、方向を意識しながら表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とびらページ</li> <li>・上下、左右、前後（1次元）で表したものの位置と順序数</li> </ul>	<p>(態度)人やものが並んでいる様子を見て何番目かをとらえる活動を楽しみ、順序の表し方について理解しようとしている。《観察》</p> <p>(知技)並んだものの順序や位置を数で表すことができる。《発言》</p>
		22～23			
	2	24	○「前から何番目」(順序数)と「前から何人」(集合数)との違いを理解する。	・順序数と集合数（4番目、4人）	(思判表)順序数が集合数かを適切に判断している。《観察・ノート》
	3	25	○自ら起点を定めて、ものの位置を表すことができる。	・起点（左から、右から）を定めた順序数の表し方	<p>(知技)起点を定めて、並んだものの位置を適切に表すことができる。《発言》</p> <p>(態度)順序や位置を数で表すよさに気づき、学習や生活にいかそうとしている。《観察》</p>

## 3 いくつと いくつ

目 標			指導時数・時期		
○ 10までの数について、ゲームをしたり数図ブロックを操作したりしながら数の合成・分解を考える活動を通して、10の補数関係を理解したり、0について知ったりするとともに、楽しみながら学ぶ態度を養う。			7 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬		
評 価					
<p>(知) ・10までの数の合成・分解と、10の補数関係を理解している。</p> <p>・0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。</p> <p>(思) ・1つの数をほかの数と関係づけて見ている。</p> <p>(態) ・これまでの体験をもとに、10までの数の合成・分解に親しみを持って関わり、数構成の仕組みのよさや学ぶ楽しさを感じている。</p>					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
いくつと いくつかな	1	26～27	○4や5について合成・分解ができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4の合成・分解（とびら）</li> <li>・5の合成・分解（とびら）</li> <li>・6の合成・分解</li> </ul>	(態度)いくつといくつの活動を楽しみながら、合成・分解による数構成の仕組みを理解しようとしている。《観察》
		28～29	○「いすとりゲーム」の活動を通して、6の合成・分解ができる。		
	2	30～31	○「おはじきとりゲーム」の活動を通して、7の合成・分解ができる。	・7の合成・分解	(知技)7の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	3	32～33	○「おはじきかくしゲーム」の活動を通して、8の合成・分解ができる。	・8の合成・分解	(知技)8の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	4	34～35	○「カードめくりゲーム」の活動を通して、9の合成・分解ができる。	・9の合成・分解	(知技)9の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
5	36～37	○「おはじきいれゲーム」の活動を通して、10の構成を理解する。	・10の合成・分解	(知技)10の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》	

	6	38	○10の補数を考え、10の合成・分解ができる。	・10の補数	(思判表)10の構成をもとに、10の補数を考えている。《観察》 (態度)10のつくり方のよさに気づき、学習や生活にいかそうとしている。《観察》
0と いう かず	7	39	○「おはじきいれゲーム」の活動を通して、0の意味や使い方を理解する。	・0という数の概念と意味	(知技)具体的な操作を通して0の意味や使い方を理解している。《観察・発言》

4 いろいろな かたち					
目 標					指導時数・時期
○ 立体について、箱や缶を用いて立体を組み立てる活動や、立体の面に着目して写し取った形をいかして絵をかき活動などを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を考えたりするとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。					3時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬
評 価					
(知)・身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。 (思)・身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえている。 (態)・これまでの体験をもとに、身のまわりにある立体図形に親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
いろいろな かたちが あるね	1	40～41	○箱や缶の特徴や機能に着目し、動物や乗り物などの形をつくること ができる。	・とびらページ ・空き箱や空き缶などを使った立体の構成	(態度)形づくりの活動を楽しみながら、素材とするものの形の特徴をとらえようとしている。《観察》 (思判表)箱や缶などの形や機能の特徴に着目し、その特徴を作品づくりにいかしている。《観察》
		42～43			
にて いる かたち	2	44～45	○身のまわりの立体を、形の特徴に着目してなかま分けする。 ○立体を触って判別する活動を通して、立体の特徴や機能についての理解を深める。	・立体図形の分類	(知技)ものの形をその特徴や機能によって分類することができる。《発言・観察》
かたちを うつして	3	46～47	○積み木の面を写しとり、面の形の特徴を利用した絵をかきを通して、平面図形に親しむことができる。	・立体の面の写し取り、それを使った絵かき遊び	(思判表)写し取った四角、三角、丸などの形に着目し、その特徴を絵かき遊びにいかしている。《観察・発言》

* さんすう みつけた!					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
さんすう みつけた!	1	48	○既習事項をふりかえり、身のまわりの数や形を見つける。	・算数探し(数や形)	(態度)身のまわりから算数を見つける活動を楽しんだり、これまでに学んだことのよさをふりかえったりしている。《観察・発言》

1年②

5 ふえたり へったり					
目 標					指導時数・時期
○ 変化する数量について、増減を数図ブロックや「ふえた」「へった」ということばで表現することを通して、数の増減の意味を理解し、たし算やひき算の学習の素地を培うとともに、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬
評 価					
(知)・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解している。 (思)・増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えている。 (態)・数量が「ふえたり」「へったり」する事象に親しみを持って関わり、ブロックを使って数量を表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	2～3	○「バスごっこ」を通して、数量の増減する場面を体験的に理解する。	・「バスごっこ」を通じた数量の増減の体験、数図ブロックの操作による数量の増減	(態度)バスごっこの活動を楽しみながら、増えたり減ったりする様子をとらえようとしている。《観察・発言》 (思判表)バスごっこの活動を通して、数量の増減に着目している。《観察》 (知技)数量の増減をブロックで表現することができる。《観察》

## 6 たしざん(1)

目 標					指導時数・時期
○ たし算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					7時間 2学期制：6月中旬～6月下旬 3学期制：6月中旬～6月下旬
評 価					
(知) ・たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場면을たし算の式に表し、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算をすることができる。					
(思) ・合併や増加の場면을、同じたし算と考えている。					
(態) ・たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、たし算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
あわせて いくつ	1	4～5	○数図ブロックを操作し、「合併」の場面を理解する。	・数図ブロックの操作による合併の場面の理解	(知技)具体的な操作を通して、合併の場面を理解している。《観察》
	2	6～7	○たし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求めることができる。	・たし算の式を知り、合併の場面を式にかいて答えを求めること 《しき、+、=、こたえ、けいさん、たしざん》	(知技)合併の場면을たし算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
ふえると いくつ	3	8	○数図ブロックを操作し、「増加」の場面を理解する。	・数図ブロックの操作による増加の場面の理解	(知技)具体的な操作を通して、増加の場面を理解している。《観察》
	4	9	○「増加」の場面でも、たし算の式にかいて答えを求めることができる。	・増加の場면을式にかいて答えを求めること ・たし算の計算練習	(知技)増加の場면을たし算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
たしざんの もんだい	5	10	○具体的な場면을たし算の式に表す。	・たし算になる文章題	(思判表)問題をよんで合併や増加の場面であることを正しくとらえて、たし算の式に表している。《発言・ノート》 (態度)合併や増加の場面はたし算の式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
たしざんの かあと	6 ・ 7	11	○たし算のカードを使って、たし算について習熟する。	・計算カードを使ったたし算の練習	(態度)(1桁)+(1桁)で答えが10までのたし算を楽しみながら、確実に身につけようとしている。《観察》

### \* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	12～13	○既習事項の確認と持続	・復習	

## 7 ひきざん(1)

目 標					指導時数・時期
○ ひき算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)-(1位数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					10時間 2学期制：6月下旬～7月中旬 3学期制：6月下旬～7月中旬
評 価					
(知) ・ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場면을数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。					
(思) ・求残、求部分、求差の場면을同じひき算と考えている。					
(態) ・ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、ひき算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
のこりは いくつ	1	14～15	○数図ブロックを操作し、「残りの数を求める」場面を理解する。	・ブロック操作による求残の場面理解	(知技)具体的な操作を通して、求残の場面を理解している。《観察》
	2	16～17	○ひき算の式を知り、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・求残の場면을ひき算の式に表して答えを求めること 《-、ひきざん》	(知技)求残の場면을ひき算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
	3	18	○数図ブロックを操作し、「部分の数を求める」場面を理解する。	・求部分の場면을ひき算の式に表して答えを求めること ・ひき算の計算練習	(思判表)具体的な操作を通して、求部分の場面についてもひき算の式に表そうとしている。《観察・発言》
ひきざんの かあと	4 ・ 5	19	○ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。	・計算カードを使ったひき算の練習	(態度)(+、1桁)-(1桁)のひき算を楽しみながら、確実に身につけようとしている。《観察》
ちがいは いくつ	6	20	○数図ブロックを操作し、「ちがいを求める」場面を理解する。	・ブロック操作による求差の場面理解	(知技)具体的な操作を通して、求差の場面を理解している。《観察》
	7	21	○「いくつ多いかを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・求差の場면을ひき算の式に表して答えを求めること	(知技)求差の場면을ひき算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
	8	22	○「ちがいを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・「ちがい」という用語による求差の場面理解と答えを求めること	(思判表)数の多少に着目して、「ちがいを求める式を考えている。《発言・ノート》

ひきざんの もんだい	9	23	○具体的な場面をひき算の式に表す。	・ひき算になる文章題	(思判表)問題をよんで求残や求差の場面であることを正しくとらえて、ひき算の式に表している。《発言・ノート》 (態度)求残や求差の場面はひき算の式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
おはなしづくり	10	24~25	○たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深める。	・絵を見て、 $3+4=7$ 、 $7-3=4$ になるおはなしをつくる活動	(思判表)式からどんな場面ができるかを正しく判断している。《発言・観察》

8 かずしらべ					
目 標				指導時数・時期	
○ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、読み取ったりする活動を通して、身のまわりの事柄の特徴をとらえることができるようにするとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬	
評 価					
(知)・ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらを読み取ったりできる。 (思)・ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴をとらえている。 (態)・ものの個数の整理の仕方に親しみを持って関わり、絵グラフに表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	26~27	○ものの数を絵グラフに表し、数の多少を比較するなどして、事柄の特徴をとらえる。	・絵グラフによるものの個数の整理と表現 ・絵グラフを使った数の多少の考察	(思判表)ものの個数に着目して、整理しようとしている。《発言・観察》 (知技)ものの数を絵グラフに表すことができる。《観察・ノート》 (態度)ものの個数について調べるときに大きさを捨象することのよさに気づき、絵グラフを生活や学習にいかそうとしている。《発言・観察》

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	28~29	○既習事項の確認と持続	・復習	

9 10より おおきい かず					
目 標				指導時数・時期	
○20までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、「10といくつ」という数構成の考え方にもとづいて加減計算をしたり数を表したりするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。				8時間 2学期制：7月中旬～9月上旬 3学期制：9月上旬～9月下旬	
評 価					
(知)・20までの数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。 ・数構成にもとづく加減計算ができる。 (思)・10をこえる数を「10といくつ」ととらえたり、数構成にもとづいて加減計算の仕方を考えたりしている。 (態)・身のまわりの20までの数に親しみを持って関わり、「10といくつ」で表したり工夫して数えたりするよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	30~32	○11から20までの数の数え方とよみ方を理解する。	・20までの数の数え方とよみ方(命数法) ・20までの数の表記(記数法)	(態度)10より大きい数に関心をもち、意欲的に数えようとしている。《観察》 (知技)20までの数を数えたり表したりすることができる。《発言・観察》
	2	33	○11から20までの数について、かくこと、数字と数図ブロックを対応させること、大小比較をすることができる。	・20までの数字のかき方 ・20までの数字と数図ブロックの対応 ・20までの数の大小比較	(知技)20までの数を数字や数図ブロックで表すことができる。《観察・ノート》 (知技)20までの数の大小を比較することができる。《発言・観察》
	3	34	○数のまとまりに着目し、「2ずつ」「5ずつ」で数えることができる。 ○並んでいるものの一部分の数を数えることができる。	・20までの数の練習、数え方の工夫(2とび、5とび)	(思判表)数のまとまりに着目し、「2ずつ」「5ずつ」で工夫して数えている。《発言・観察》 (態度)「2ずつ」や「5ずつ」のように工夫して数えるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
10といくつ	4	35	○「10といくつ」という見方を通して、20までの数について理解を深める。	・20までの数の構成	(思判表)10のまとまりに着目し、数を構成したり分解したりしている。《発言・観察》

かずの ならびかた	5	36～37	○数字カードを並べる活動を通して、20までの数の系列について理解し、数直線上の数をよんだり表したりすることができる。	・20までの数直線 《かずのせん》	(知技)20までの数の系列を理解し、数直線上の数をよんだり表したりすることができる。《発言・ノート》
たしざんと ひきざん	6	38	○20までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	・ $10+(1\text{位数})=(十何)$ ・ $(十何)-(1\text{位数})=10$	(知技) $10+(1\text{位数})$ のたし算の仕方を理解し、計算できる。《発言・ノート》 (知技) $(十何)-(1\text{位数})$ で答えが10になるひき算の仕方を理解し、計算できる。《発言・ノート》
	7	39	○20までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	・ $(十何)+(1\text{位数})=(十何)$ ・ $(十何)-(1\text{位数})=(十何)$	(態度)10といくつになるかという考え方をいかそうとしている。《観察・発言》 (知技) $(十何)\pm(1\text{位数})$ のたし算やひき算の仕方を理解し、計算できる。《観察・ノート》
まなびの まとめ	8	40～41	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	42～43	○既習事項の確認と持続	・復習	

10 なんじ なんじはん

目 標			指導時数・時期		
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時・何時半をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬		
評 価					
(知)・何時・何時半の時刻のよみ方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。					
(思)・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えている。					
(態)・生活場面の時刻に親しみをもち、時計の針の位置に目をつけることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	44～45	○時刻のよみについて、興味と関心をもつ。 ○時計の仕組みを知り、何時・何時半の時刻をよんだり、針を合わせたりすることができる。	・何時・何時半の時刻をよむこと ・何時・何時半の時刻を表すこと	(態度)生活場面の時刻に関心をもち、時刻をよもうとしている。《観察》 (思判表)長針・短針の位置に着目して、活動している。《観察》 (知技)何時・何時半の時計をよんだり針を合わせたりすることができる。《発言・観察》

11 おおきさくらべ(1)

目 標			指導時数・時期		
○ ものの長さ・かさについて、直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる活動を通して、長さ・かさの概念を理解するとともに親しみながら学ぶ態度を養う。			5時間 2学期制：9月中旬～9月下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬		
評 価					
(知)・長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。					
(思)・長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身につけている。					
(態)・身のまわりものの長さやかさに親しみをもち、いろいろな比べ方のよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
くらべた こと ある かな ながさくらべ	1	46～47	○これまでの体験をふりかえり、大きさ比べに興味・関心をもつ。	・とびらページ ・長さの直接比較	(態度)長さの比べ方に興味・関心をもち、工夫して長さを比べようとしている。《観察》 (知技)直接比較の方法を理解し、長さを比べることができる。《観察》
		48～49	○長さ比べという活動に興味・関心をもち、直接比較を用いて長さを比べることができる。		
	2	50	○間接比較を用いて、身近な場面で長さを比べることができる。	・長さの間接比較	(知技)身近なものの長さや高さをテープに写し取って、比べることができる。《観察》
	3	51	○机の縦と横の長さを比べる活動などを通して、基準量のいくつ分で長さを比べられることを理解し、そのよさに気づく。	・長さの任意単位による測定	(思判表)基準とする長さのいくつ分かで長さを表したり、比べたりしている。《観察》 (態度)単位となるものを使うことで、長さを数で表せるよさに気づいている。《観察》

かさくらべ	4	52	○一方の容器の水を他方に移したり、別の容器に移したりして、かさ比べをする。	・かさの間接比較 ・かさの直接比較	(態度)かさの比べ方に興味・関心を持ち、進んで活動しようとしている。《観察》 (知技)いれものに入る水のかさを比べることができる。《観察》
	5	53	○コップを単位として、その何杯分かでかさを比べられることを理解し、そのよさに気づく。	・かさの任意単位による測定 ・箱のかさの直接比較	(思判表)コップの何杯分かでかさを表したり、比べたりしている。《観察》 (態度)単位となるものを使うことで、かさを数で表せるよさに気づいている。《観察》

## 12 3つの かずの けいさん

目 標						指導時数・時期
○ 3つの数の計算について、増えたり減ったりする場面を1つの式に表して計算することができるようにするとともに、式に表すよさを感じながら学ぶ態度を養う。						4時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬
評 価						
(知)・3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。						
(思)・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えている。						
(態)・3つの数が用いられる場面に親しみを持って関わり、1つの式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。						
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準	
	1	54～55	○3つの数の計算(+、+)の場面を理解し、計算ができる。 ○1つの式に表すよさを知り、進んで用いようとする。	・3口のたし算(a+b+c)	(知技)2回たし算する場面を、1つの式に表して計算できる。《ノート》	
	2	56	○3つの数の計算(-、-)の場面を理解し、1つの式に表して計算することができる。	・3口のひき算(a-b-c)	(態度)2回ひき算する場面を、たし算のときと同じように考えて、1つの式に表そうとしている。《発言・観察》 (知技)2回ひき算する場面を、1つの式に表して計算できる。《ノート》	
	3	57	○3つの数の計算(-、+)の場面を理解し、計算ができる。	・加減混合の3口の計算(a-b+c)	(思判表)数量の増減に着目して、ひいてたす場面を1つの式に表している。《ノート》	
	4	58	○3つの数の計算(+、-)の場面を理解し、計算ができる。	・加減混合の3口の計算(a+b-c) ・4口の計算	(思判表)数量の増減に着目して、たしてひく場面を1つの式に表している。《ノート》 (態度)3つの数のときにも1つの式にかいて計算できることのよさに気づき、学習にいかそうとしている。《発言・観察》	

## \* ふくしゅう・じゅんび

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	59	○既習事項の確認と持続 ○次の単元の準備	・復習 ・準備	

## 13 たしざん(2)

目 標						指導時数・時期
○ (1位数)+(1位数)について、繰り上がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。						9時間 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月中旬～11月上旬
評 価						
(知)・繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算ができる。						
(思)・10の補数に着目して、繰り上がりのあるたし算の仕方を考えている。						
(態)・たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10をつくって計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。						
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準	
	1	60～61	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、数図ブロックの操作を通して、10の補数を利用した計算方法を見いだすことができる。	・ブロック操作による繰り上がりのあるたし算の仕方の理解	(態度)答えが10をこえることに気づき、ブロックを操作して10のまとまりをつくって計算しようとしている。《発言・ノート》 (知技)ブロック操作を通して、繰り上がりのあるたし算ができる。《ノート》	
	2	62～63	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、10の補数を利用した計算方法をつくり上げることができる。	・繰り上がりのあるたし算の一般化と定着	(思判表)加数を分解して、繰り上がりのある(1位数)+(1位数)のたし算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》	

	3	64	○被加数が6以上(9、8、7、6)のたし算の計算ができる。 ○合併の場面のたし算を解くことができる。	・被加数が6以上のたし算の練習と適用題	(知技)加数分解によるたし算の仕方を理解し、計算できる。《ノート》
	4	65	○被加数が5以下(5、4、3、2)のたし算の計算ができる。	・被加数が5以下のたし算の練習と適用題	(思判表)被加数や加数に対する10の補数に着目すればよいことに気づいている。《発言・ノート》
たしざんの かあど	5 ～ 7	66	○たし算のカードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し、習熟する。	・計算カードを使ったたし算の練習	(知技)繰り上がりのある(1位数)+(1位数)のたし算が確実にできる。《観察・ノート》 (態度)(1桁)+(1桁)の繰り上がりのあるたし算を楽しみながら、確実に身につけようとしている。《観察》
					8
まなびの まとめ	9	68～69	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 14 かたちづくり

目 標					指導時数・時期
○ 形づくりについて、色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。					5時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬
評 価					
(知) ・色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。 (思) ・図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につけている。 (態) ・色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	70	○色板を使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に図形の構成に取り組む。	・色板を使った形づくり(面構成)	(態度)自分の好きな形をつくることを楽しみながら、色板を並べてものの形を表現しようとしている。《観察》 (知技)色板でいろいろな形を作ることができる。《観察》
	2	71	○色板の並べ方を工夫して、影絵の形を構成することができる。	・色板を使った形づくり(面構成)	(思判表)影絵の形を観察して、色板の並べ方や枚数を考えている。《観察・発言》
	3	72	○棒の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成することができる。	・色棒を使った形づくり(線構成)	(知技)色棒でいろいろな形をつくることできる。《観察》
	4	73	○点をつないでいろいろな形を構成することができる。	・点つなぎによる形づくり(点構成)	(知技)点をつないでいろいろな形をつくることできる。《観察》 (態度)自分の好きな形をつくることを楽しみながら、点を線でつないでものの形を表現しようとしている。《観察》
	5	74	○図形の変化に着目して、色板や棒を動かすことができる。	・色板を動かして形を変形させる活動 ・棒を動かして形を変形させる活動	(思判表)形の同じところや違うところに着目して、色板や棒を動かしている。《観察》

### \* ふくしゅう・じゅんび

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	75	○既習事項の確認と持続 ○次の単元の準備	・復習 ・準備	

## 15 ひきざん(2)

目 標					指導時数・時期
○ (十何)-(1位数)について、繰り下がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					11時間 2学期制：11月中旬～12月上旬 3学期制：11月中旬～12月上旬
評 価					
(知) ・繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算ができる。 (思) ・10といくつにわけて、繰り下がりのあるひき算の仕方を考えている。 (態) ・ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10といくつという数の見方で計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。					



小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	76～77	○(十何)－(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを操作し、計算方法をみつけることができる。	・ブロック操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解	(態度)答えが10より小さくなることに気づき、ブロックを操作して被減数を10といくつに分けて計算しようとしている。《発言・ノート》 (知技)ブロック操作を通して、繰り下がりのあるひき算ができる。《ノート》
	2	78～79	○(十何)－(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、計算方法をつくり上げることができる。	・繰り下がりのあるひき算の一般化と定着	(思判表)被減数の10からひいて残りをたすという、繰り下がりのある(十何)－(1位数)のひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	80	○減数が6以上(9、8、7、6)のひき算の計算ができる。 ○求差の場面のひき算を解くことができる。	・減数が6以上のひき算の練習と適用題	(知技)減加法によるひき算の仕方を理解し、計算できる。《ノート》
	4	81	○減数が5以下(5、4、3、2)のひき算ができる。	・13－4などの減数が5以下のひき算の練習と適用題	(思判表)被減数を10といくつとみて、10からひいたり、いくつからひいたりすればよいことに気づいている。《発言・ノート》
ひきざんのかあと	5～7	82	○ひき算のカードを使って、繰り下がりのあるひき算を練習し、習熟する。	・計算カードを使ったひき算の練習	(態度)(十何)－(1桁)の繰り下がりのあるひき算を楽しみながら、確実に身につけようとしている。《観察》
	8	83	○ひき算のカードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。	・計算カードの答えによる分類ときまり	(思判表)答えが同じひき算カードを並べるのに順序よく整理したり、きまりを見いだしたりしている。《発言・観察》
かずあてげえむ	9	84	○数のカードを用いた「かずあてげえむ」を通して、加減の計算の理解と習熟を図る。 ○被加(減)数もしくは加(減)数のいずれかを裏返すことにより、□を使った式の素地活動を行う。	・□を使った式の素地(等式の穴埋め)	(知技)数字や演算記号のカードを並べて、等式をつくることができる。《観察》 (思判表)等式が成り立つように、あてはまる数を見つけている。《発言・観察》
けいさんのかみしばい	10	85	○たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくること(作問)に興味や関心をもつ。	・8+6や12－7などのたし算、ひき算になる問題を作る活動	(思判表)式からどんな場面ができるかを正しく判断し、問題を作っている。《発言・観察》 (態度)たし算やひき算のお話づくりを楽しみながら、式と絵とことばを関連づけようとしている。《観察》
まなびのまとめ	11	86～87	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 16 0の たしざんと ひきざん

目 標			指導時数・時期		
○ 0を含むたし算、ひき算について、0の扱いを考えることを通して、計算の理解を深め、0を含む計算が確実にできるようにするとともに、日常生活にいかしながら学ぶ態度を養う。			2時間 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬		
評 価					
(知)・0を含むたし算・ひき算の式やその計算の仕方を理解し、0を含む計算をすることができる。					
(思)・0を含む場合のたし算・ひき算の式やその計算の仕方を考えている。					
(態)・0のたし算やひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、0があるときにも式に表して計算できることよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	88	○0のたし算の場面を理解し計算ができる。	・0のたし算	(思判表)他の数と同じように0を扱ってよいことに気づき、0を使って式に表している。《観察・ノート》 (知技)0のたし算ができる。《ノート》
	2	89	○0のひき算の場面を理解し計算ができる。	・0のひき算	(態度)0があるときにも0を使って式に表して計算できるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《発言・ノート》 (知技)0のひき算ができる。《ノート》

17 ものと ひとの かず					
目 標					指導時数・時期
○ ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題について、絵や図を用いて考えることを通して、それらの問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					3時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
評 価					
(知) ・数量の対応や順序を絵や図に表したり、式にかいて解決したりすることができる。 (思) ・絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりしている。 (態) ・順序数や集合数の用いられる場面に親しみを持って関わり、絵や図を使って考えることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	90	○ある数量を他の数量に置き換える問題を解くことができる。	・ものと人の数を対応させた減法の問題 ・ものと人の数を対応させた加法の問題	(思判表)絵や図を使って、9人を9脚に置き換えて考えればよいことに気づいている。《発言・観察》 (知技)人の数ともの数との対応を図に表し、式にかいて解決することができる。《観察・ノート》
なんばんめ	2	91	○順序数と集合数の問題を解くことができる。	・順序数と集合数の問題(人の数からものの順番を答える問題) ・順序数と集合数の問題(ものの順番から人の数を答える問題)	(思判表)前に7人いることを図に表して、その順序を考えている。《発言・ノート》 (知技)集合数と順序数の違いやその関係を深く理解している。《観察・ノート》
	3	92～93	○順序数と集合数の問題を計算で解くことができる。	・順序数と集合数の問題(順序数を集合数におきかえる加法の問題) ・順序数と集合数の問題(順序数を集合数におきかえる減法の問題)	(態度)絵や図を使って考えるよさに気づき、図にかいて考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)並んでいる様子を図にかき、図を使って人数の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

わくわく ぷろぐらみんぐ					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	94～95	○ロボットを動かすプログラムをつくる活動を通して、平面上の位置の表し方や簡単なプログラミングの考え方を理解する。	・上下左右(二次元)での位置の表し方 ・プログラムによる上下左右(二次元)の移動	(知技)ものの位置の表し方や簡単なプログラミングの考え方を理解している。《観察》 (態度)位置はいろいろな表し方があることに気づき、工夫して伝えたり、プログラミングしたりしようとしている。《発言・観察》

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	96～97	○既習事項の確認と持続	・復習	

18 大きい かず					
目 標					指導時数・時期
○ 100までの数や100を少しこえる数について、ものの個数や順番を正しく数える活動を通して、数の系列を理解し、大小判断をできるようにするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。					13時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬
評 価					
(知) ・100までの数や100を少しこえる数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。 (思) ・「10がいくつと、1がいくつ」や「100と何十何」という見方を働かせて、100までの数や100を少しこえる数について考えている。 (態) ・身のまわりの100までの数や100を少しこえる数に親しみを持って関わり、10ずつまとめて数えたり数字や数直線で数を表したりするよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
かずの かぞえかた	1	98～99	○数え棒の数え方を工夫し、10のまとまりをつくって数えるよさに気づくとともに、20をこえる数の数え方を理解する。	・20をこえる数の数え方(命数法) ・数え方の工夫(10とび)	(態度)20をこえる数を工夫して数えようとしている。《観察・発言》 (知技)10のまとまりをつくって、20をこえる数を数えることができる。《観察》
かずの かきかた	2	100	○2位数の十進位取り記数法について理解する。	・100までの数の記数法 《一のくらい、十のくらい》	(知技)十の位と一の位について理解し、2位数を数字でかくことができる。《ノート》 (思判表)十の位と一の位に着目し、数の表し方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》

	3	101	○十進位取り記数法にもとづいて、2位数の構成の理解を深める。	・100までの数の構成	(思判表)「10がいくつと、1がいくつ」という見方を働かせて2位数をとらえている。《観察・ノート》
100までの かず	4	102	○100までの数の数え方や表し方に習熟し、100について理解する。	・100という数(命数法と記数法) 《百》	(態度)10ずつ数えることよき気づき、工夫して数えようとしている。《観察・発言》 (知技)具体物を数えることを通して、100という数について理解している。《観察》
	5	103	○100までの数の数表を通して、数構成や数の系列の理解を深める。	・100までの数の数表 《100までのかず》	(知技)具体物と数表とを対応づけて、100までの数の系列について理解している。《観察》 (態度)100までの数の数表を使った活動を楽しみながら、100までの数の理解を深めたり、数表のきまりをみつけたりしている。《発言・観察》
	6	104	○100までの数の大小について理解する。	・100までの数の大小比較	(思判表)上の位の数から比べて、2位数の大小比較をしている。《発言・観察》
	7・8	105	○100までの数の系列や順序を理解する。 ○すごろく遊びを通して、100までの数について理解を深める。	・100までの数の系列	(知技)100までの数の系列や順序を理解している。《観察・発言》 (態度)100までの数の系列をいかして、意欲的にすごろく遊びに取り組もうとしている。《観察》
学 さがして みよう	9	106	○身のまわりで100までの数が使われている場面を調べ、数字を使うよさに気づくことができる。	・算数探しの活動	(態度)100までの数が使われている場面を探すことを楽しみながら、数の使い方の理解を深め、生活や学習に生かそうとしている。《観察》
かいもの	10	107	○買い物場面でお金の出し方を考えることを通して、数の合成・分解に習熟し、数の感覚を豊かにする。	・買い物場面の題材を通して、数を多面的に捉え、数感覚を豊かにする活動	(思判表)お金の出し方をいろいろに考えている。《発言・観察》
100を こえる かず	11	108	○100をこえる数の構成(よみ方、表し方)について理解する。	・100を少しこえる数の数え方(命数法と記数法) 《100をこえるかず》	(思判表)「100と何十何」という見方を働かせて100をこえる数をとらえている。《観察・発言》 (知技)100をこえる数の構成について理解し、よんだりかいたりすることができる。《発言・ノート》
	12	109	○100をこえる数の順序について理解する。	・100を少しこえる数の系列、大小比較	(知技)100をこえる数の系列について理解し、100をこえるかこえないかの判断ができる。《観察・ノート》
まなびの まとめ	13	110~111	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 19 なんじなんぷん

目 標		指導時数・時期			
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、時計を使って何時何分かをよんだり表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。		2時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬			
評 価					
(知) ・時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 ・何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。 (思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、何時何分かを考えている。 (態) ・生活場面の時刻に親しみをもち、時計の針の位置や目盛りに目をつけることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	112~113	○時計のよみに興味をもち、何時何分の時刻をよむことができる。	・何時何分の時刻をよむこと	(態度)生活場面の時刻に関心をもち、時刻のよみ方を身につけようとしている。《観察》 (思判表)長針・短針のさす目盛りに着目して何時何分かを考えている。《観察》 (知技)時計をみて何時何分かを正しくよむことができる。《発言・観察》
	2	114	○何時何分の時刻を正しくよんだり、針を合わせたりすることができる。	・何時何分の時刻を表すこと(デジタル時計を含む)	(知技)時刻の通りに時計の針をあわせることができる。《観察》

## 20 おなじ かずずつ

目 標					指導時数・時期
○ 同じかずずつに分ける場面について、ブロックを使って等分したりまとめて数えたりする活動や、図や式にかいて確かめる活動を通して、乗法や除法の素地を培うとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					1 時間 2 学期制：2 月中旬 3 学期制：2 月中旬
評 価					
(知) ・数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じかずずつ」の意味を理解している。 ・乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。 (思) ・等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えている。 (態) ・同じかずずつにわけける場面に親しみを持って関わり、具体物を用いて実際に分けてみるよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	115	○かけ算やわり算の素地となる「同じかずずつ」の意味を理解し、数の感覚を豊かにする。	・かけ算、わり算の素地	(態度)等しく分ける活動を楽しみながら、操作の仕方や意味を理解しようとしている。《観察》 (思判表)同じ数のまとまりに着目し、1 つ分の数やまとまりの数を考えたり、全部の数を確かめたりしている。《観察》 (知技)ブロックを操作して同じかずずつに分けたり、式を使って分け方が正しいか確かめたりすることができる。《観察》

## 活 たすのかな ひくのかな

小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	116～117	○たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。	・加減の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

## \* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	118～119	○既習事項の確認と持続	・復習	

## 21 100 までの かずの けいさん

目 標					指導時数・時期
○ 100 までの数について、数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を考えることを通して、計算ができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					4 時間 2 学期制：2 月下旬 3 学期制：2 月下旬
評 価					
(知) ・数構成にもとづくたし算・ひき算の計算の仕方を理解し、100 までの数のたし算・ひき算ができる。 (思) ・数構成にもとづいて、たし算・ひき算の計算の仕方を考えている。 (態) ・100 までの数のたし算・ひき算の場面に親しみを持って関わり、数構成にもとづいて計算できることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	120	○10 がいくつできるかに着目して、100 までの数の(何十)±(何十)の計算ができる。	・(何十)+(何十)の計算 ・(何十)-(何十)の計算	(思判表)計算棒の操作を通して、10 がいくつできるかを考えればよいことに気づき、計算の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技)(何十)±(何十)の計算ができる。《ノート》
	2	121	○100 までの数の構成に基づいた計算をすることができる。	・(何十)+(何)=(何十何)の計算 ・(何十何)-(何)=(何十)の計算	(態度)「10 がいくつと、1 がいくつ」という数の構成的な見方を働かせて計算できることのよさに気づき、学習にいかそうとしている。《観察・発言》 (知技)(何十)+(何)や(何十何)-(何)=(何十)の計算ができる。《観察・ノート》
	3	122	○100 までの数の(何十何)+(何)の計算(繰り上がりなし)ができる。	・(何十何)+(何)で、繰り上がりのない計算	(知技)(何十何)+(何)で繰り上がりのないたし算ができる。《ノート》
	4	123	○100 までの数の(何十何)-(何)の計算(繰り下がりなし)ができる。	・(何十何)-(何)で、繰り下がりのない計算	(知技)(何十何)-(何)で繰り下がりのないひき算ができる。《ノート》

22 おおい ほう すくない ほう					
目 標					指導時数・時期
○ 求大・求小の場面の問題について、絵や数図ブロック、式を用いて考えることを通して、多少の関係をとりえて問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					2 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
評 価					
(知) ・多少の関係のとりえ方を理解し、求大・求小の問題を解くことができる。 (思) ・絵や数図ブロックを用いて多少の関係を表し、どんな式になるかを考えている。 (態) ・生活場面の数の多少に親しみを持って関わり、絵や数図ブロックなどを用いて考えることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	124	○求大(大きい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	・求大の問題	(態度)ブロックを並べて多少の関係を正しくとらえようとしている。《観察》 (思判表)多少の関係をとりえて、大きいほうの数量の求め方を考えている。《発言・ノート》
	2	125	○求小(小さい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	・求小の問題	(知技)ブロックを並べて多少の関係を正しくとらえることができる。《観察》 (思判表)多少の関係をとりえて、小さいほうの数量の求め方を考えている。《発言・ノート》

23 大きさをくらべ(2)					
目 標					指導時数・時期
○ 広さについて、広さを直接比べたり、任意単位を用いて比べたりする活動を通して、身のまわりのものの広さを比較し、広さの概念を養うとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					1 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
評 価					
(知) ・広さの概念を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。 (思) ・場面に応じて広さの比べ方を考えている。 (態) ・身のまわりものの広さに親しみを持って関わり、いろいろな比べ方のよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	126～127	○広さを比べる方法を考え、重ねたり□の数を数えたりすることで、広さを比べられることを理解する。	・広さの直接比較 ・広さの任意単位による測定	(態度)広さの比べ方に関心を持ち、進んで活動している。《観察》 (知技)直接比較の方法を理解し、広さを比べることができる。《観察》 (思判表)基準とする広さのいくつかで広さを表したり、比べたりしている。《観察》

活 かえますか? かえませんか?					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	128～129	○1つが50円で買えるか買えないかを判断し説明することができる。(見積もりの素地)	・見積もりの素地 (50 円で買えるかどうかの判断)	(思判表)1 つのものが 50 円で買えるかどうかを判断し、それを根拠に 2 つのものが 50 円玉 2 枚で買えるかどうかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

* もう すぐ 2 年生					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	130～131	○1 年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	132～133			
	3	134～135			

★ けいさんの れんしゅう		
ページ	学習内容	指導時数
136～138	・1 年生で学習した計算の練習	

※「けいさんの れんしゅう」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。